

とっとりGXバイオプラットフォーム
キックオフイベント



王子ホールディングスの木質バイオマスとその活用戦略

2026年 9月2日

王子ホールディングス株式会社

常務執行役員 CIO イノベーション推進本部長

奥谷岳人

はじめに

王子ホールディングスの会社概要



会社名	王子ホールディングス株式会社
代表取締役 社長執行役員 (CEO)	磯野 裕之
本社所在地	〒104-0061 東京都中央区銀座4丁目7番5号
創業	1873年（明治6年）2月12日 （財閥解体後の設立1949年（昭和24年）8月1日）
資本金	103,880百万円（2025年3月末現在）
連結従業員	39,136名（2025年3月末現在）

【経営理念】 革新的価値の創造
未来と世界への貢献
環境・社会との共生



近代日本の父
渋沢栄一翁により設立した
日本最初の株式会社
2023/2 創立150周年を迎えた

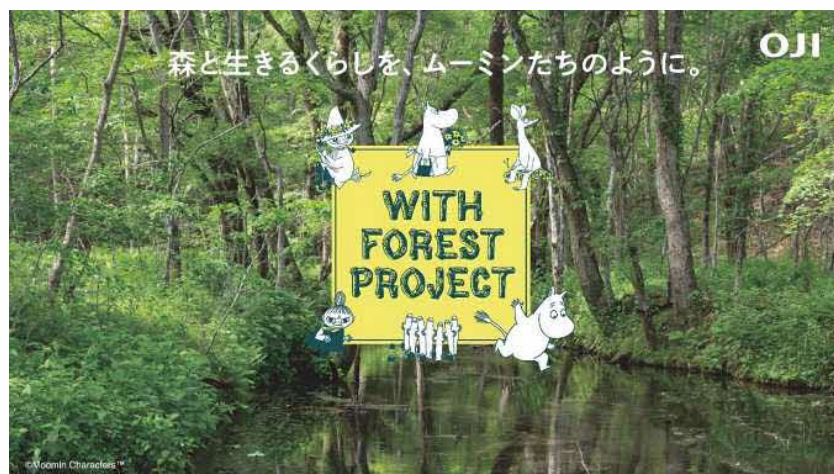
出典：国立国会図書館「近代日本人の肖像」
(<https://www.ndl.go.jp/portrait/>)



王子ホールディングス
銀座本社ロビー



森林を健全に育て、
その森林資源を活かした製品を創造し、社会に届けることで、
希望あふれる地球の未来の実現に向け、時代を動かしていく



「WITH FOREST PROJECT」

当社は、森林を健全に育て、森林資源を活かした事業を150年以上続ける企業として、「ムーミン」と共通する価値観のもと、すべての人に森を身近に感じてもらうことを目的に、森の価値を発信する取り組みをスタートしています。

<https://forest.ojiholdings.co.jp/>

王子の森林経営

森林資源に根付いた事業運営の継続



渋沢栄一翁
会社設立



木材パルプ製造開始
静岡県気田

「木を使うものには、
木を植える義務がある」

1930年代 当社社長 藤原銀次郎



1873

1875

1890

1910

1937

2025

製紙産業で培った技術を基盤に
森林資源の価値を最大化

東京都王子に
工場建設
衣服のボロ切れを
リサイクル原料
として紙を生産

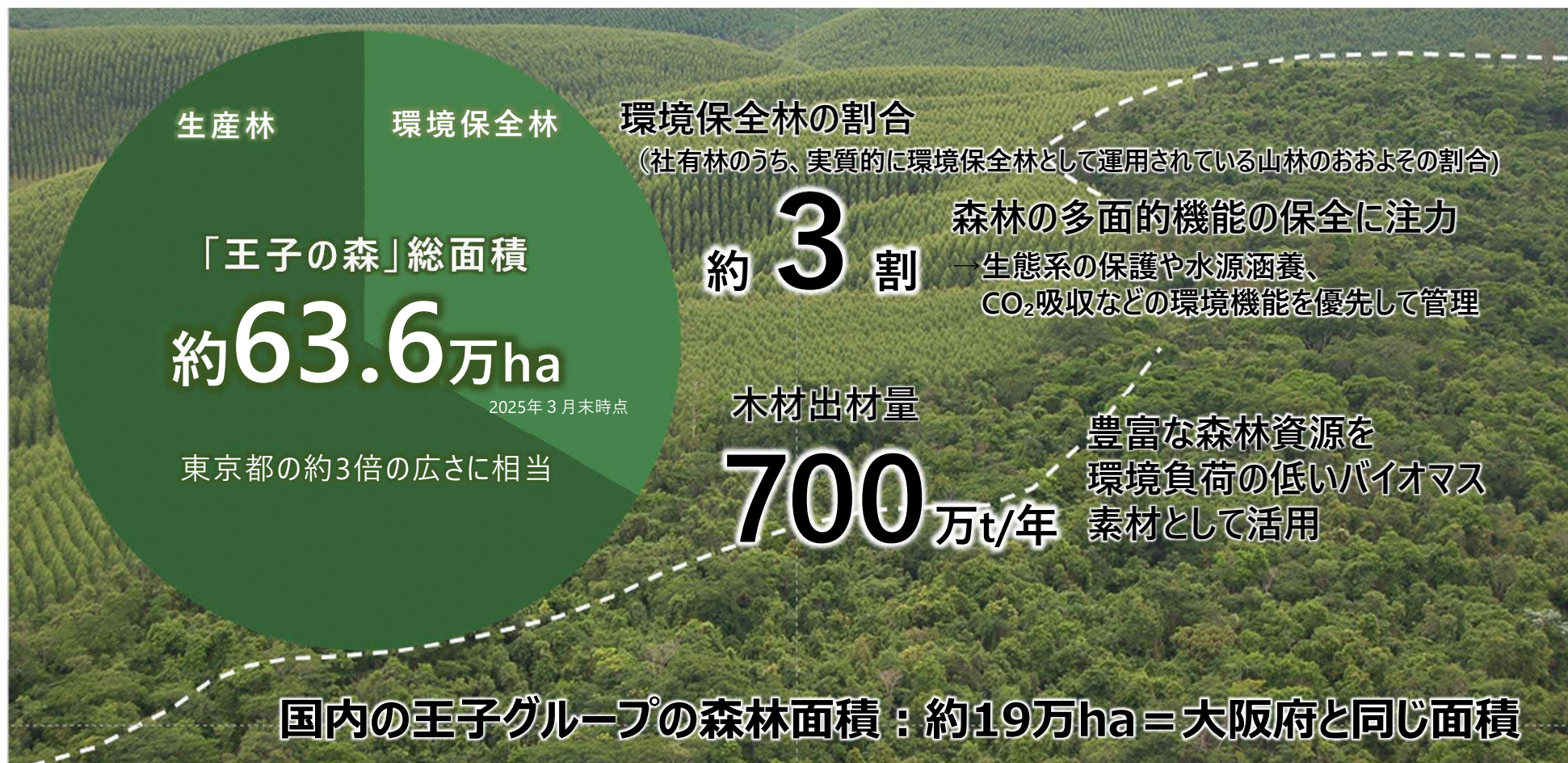
苫小牧工場開場



王子造林の設立

製紙原料の木材
を求めて北海道へ

「サステナブル」という言葉が普及するずっと前から
森林資源に根付いた事業を運営・発展
【森林を活かすことは、王子GのDNAです】



王子の森林経営 経済価値



2024年9月 国内社有林の多面的機能につき、経済価値の試算額を発表：5,500億円/年

土砂流出・崩壊防止 ➢2,750億円/年

森林の下層植生や落葉落枝が
地表の浸食を抑制する役割
森林が根系を張り巡らすことによって
土砂の崩壊を防ぐ役割

生物多様性の保全 ➢430億円/年

森林が果たしている野生鳥獣の
生息の場としての役割



大気保全・保健休養 ➢280億円/年

森林がその成長の過程でCO₂
を吸収し、酸素を供給している役割
森林が人にやすらぎを与え、
余暇を過ごす場として果たしている役割

水源涵養 ➢2,040億円/年

森林の土壌が降水を貯留し、
河川へ流れ込む水の量を平準化して
洪水、渇水を防ぎ、
さらにその過程で水質を浄化する役割

自然資本の経済価値を定量的に評価する手法を確立 ⇒ 価値の最大化 ⇒ 社会への情報開示 の取り組みを通じて
ネイチャーポジティブ&カーボンニュートラル の達成を目指す

王子グループの方針

王子グループの事業ポートフォリオ転換

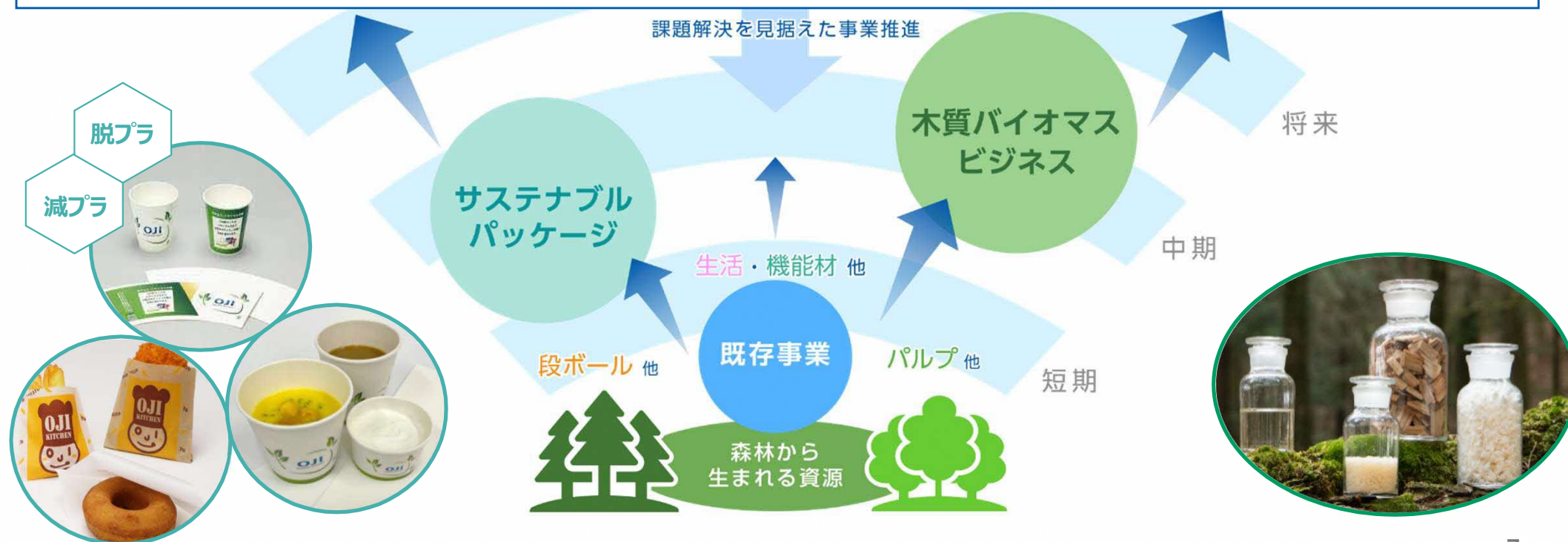


サステナビリティへの貢献

サーキュラーエコノミー

ネイチャーポジティブ

カーボンニュートラル



王子の研究開発

目指す姿：木質バイオマスビジネス全体像



王子のリソースを活用した新素材・新製品の開発により、カーボンニュートラルな社会の実現に貢献

王子の研究開発

研究開発方針



既存事業からのポートフォリオ転換に向け、4つの軸で研究開発を推進



木質由来新素材の開発

森林に由来するバイオマスから、化石資源由来素材を代替する様々な高付加価値製品の創出



未利用バイオマス資源の有価物化

豊富な森林資源の林地残材や、紙ができるまでの副産物から環境負荷が低くかつ付加価値を付与した製品を開発し、資源循環を実現



医薬・ヘルスケア領域への本格参入

王子グループ独自技術を活かした“木質由来”の医薬品ビジネスの立上げ



サステナブルパッケージ(環境配慮型製品)の展開

脱プラスチックをはじめとする環境課題に対応可能な製品を国内外で展開



王子の研究開発：木質由来新素材の開発 開発事例

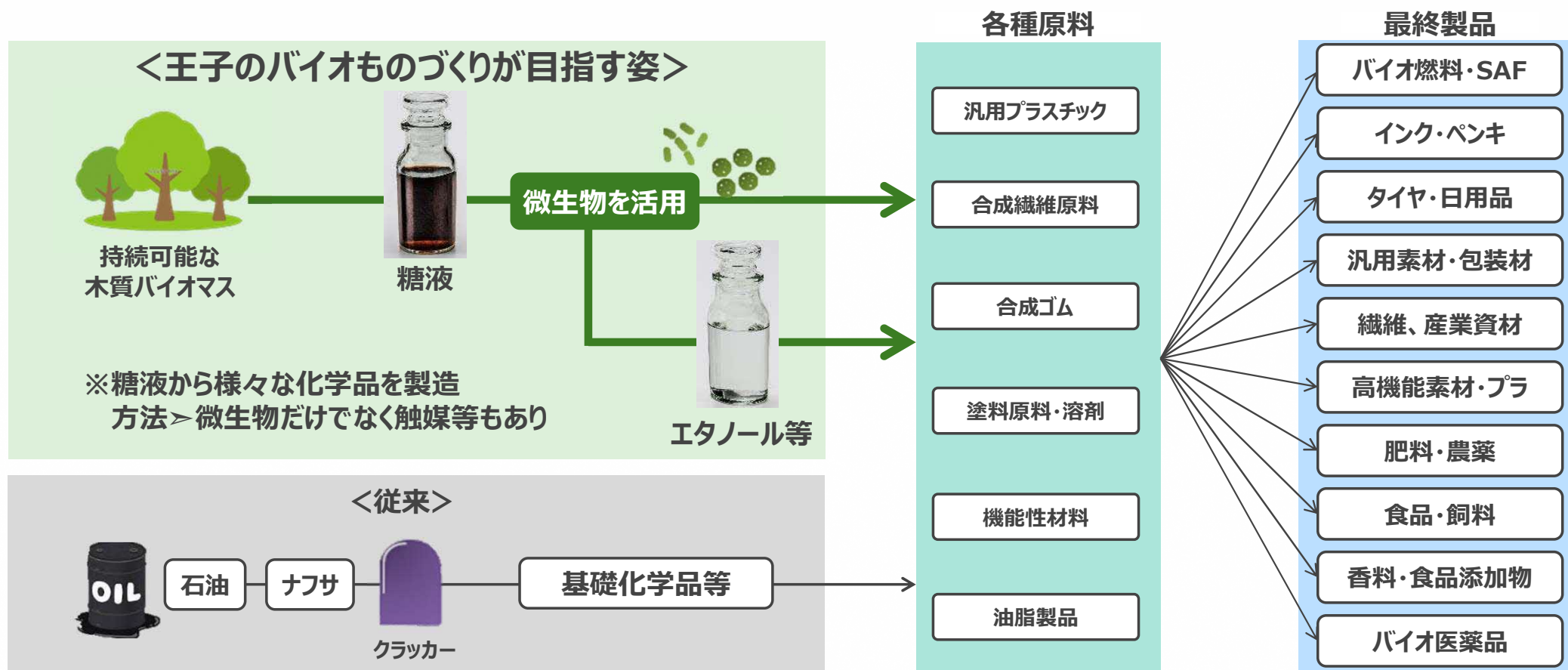
王子グループの木質バイオマスビジネス



日本の国土の2/3を占める森林の資源を将来的には活用 * 当社が買収したオーストリアのAustrocel社が森林活用モデルになりうる

王子の研究開発：木質由来新素材の開発 開発事例

将来像：木質由来糖液・エタノール等の展開



(2023年4月19日 経済産業省 産構審 経済産業政策新機軸部会 (第14回) 掲載資料を基に当社作成)

鳥取県における開発事例①

バイオものづくり事業の推進



バイオ技術を通じて社会へ大きく貢献

糖液・バイオエタノールのパイロットプラントを設置。

実証試験を進めると共に、製造した製品は顧客に提供し評価を仰ぎ、実用化を加速。

木質由来糖液・エタノールパイロットプラント

(王子製紙米子工場敷地内)



鳥取県における開発事例②

溶解パルプ(DP:Dissolving Pulp)の開発



幅広く利用されている高純度セルロースの高品質化と生産性向上を追求

- ✓ DPとは、セルロース純度がほぼ100%の高純度パルプ
- ✓ 加工方法によってさまざまな用途（繊維、医療、食品、液晶など）で利用



さらなる高品質化、
生産性向上を目指した技術開発を推進



鳥取県における開発事例③

バイオマス由来の医薬品開発



王子ファーマ(株)は、硫酸化ヘミセルロースの医薬品開発を中心に医薬品ビジネスの立ち上げを加速

木材中の未活用の成分の活用、高付加価値化

ヘミセルロース



硫酸化ヘミセルロース

血液凝固阻止作用

抗炎症作用



木質由来の医薬品

持続可能な
開発

安定
供給

ハラル
対応

中国依存
からの
脱却



動物用医薬品

関節炎治療薬の開発
馬やキリンへの投与試験



ヒト用医薬品

第一種・第二種医薬品
製造販売業許可
医薬品店舗販売業許可の取得
➢ 血液透析の抗凝固薬として
国内第Ⅰ相臨床試験
「ヒト初回投与試験を開始」

硫酸化ヘミセルロースの医薬品開発を中心に
医薬品ビジネスの立ち上げを加速

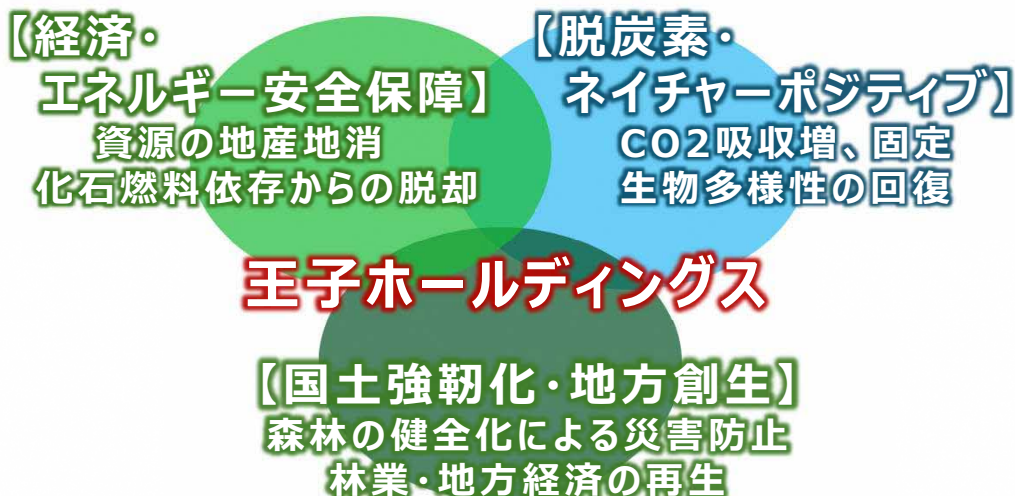
王子の覚悟と貢献、そして課題

バイオマス資源大国『日本』における官民連携について



そもそも、日本は『バイオマス資源大国』です！官民の強力な連携(法整備、インフラ支援、国際ルール形成等)により、次世代に「希望あふれる地球の未来」を引き継ぐ枠組みを共に構築していく

王子の覚悟➢ 現在、日本が直面する国家的課題に対し、王子Gは150年の歴史と圧倒的な森林基盤をもって、解決していく責務を負っていると考えている。木と本気で向き合う覚悟を持ち、収穫を迎えるまでずっと待ち続けなければならない。この長期的視点こそが、他業種には模倣できない圧倒的な基盤となる。



	旧来の前提	2026年の現実
資源	日本は化石燃料に依存する 資源小国	国土の68%が森林→日本は豊かな資源を有するバイオマス大国
素材	木材は 建材・紙の原料 、または燃やすもの	木材から石油代替品(各種ケミカル)の製造が可能
産業	紙需要の減少 = 産業の衰退	今の時代に製造すべきものと量が変わるだけ。製紙産業のポートフォリオ転換は極めてポジティブな展開

- 日本はバイオマス資源大国だが、、森林は十分に健全ではなく、いまだ資源を有効に使い切れていない！



木質バイオマスを使いこなし、経済／エネルギー安全保障に貢献する官民連携の仕組みが必要

王子の目指す将来像／日本としてすべきこと

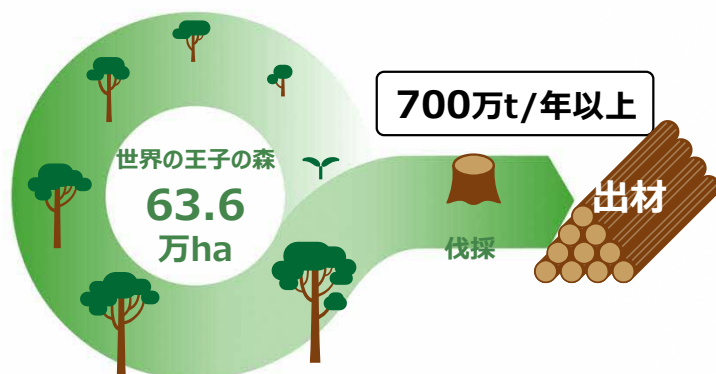
森林とバイオものづくりの新たな関係(王子の取組み)



『森林(川上)』×『バイオものづくり(川下)』が、磨き合い、共創することで新たな価値を生み出す

森林の価値 (木質バイオマス)

サステナブルな環境保全と原料供給の両立



【森林価値を上乗せして
資源を使いこなす】

【森林の価値を
さらに高める】

「自然資本会計」の制度化に向けた議論への関与を
強めるため、グローバルに積極的な働きかけを実践

- ・International Sustainable Forestry Coalition
- ・Nature Positive Initiative
- ・東京大学 グローバル・コモンズ・センター 等

→ 新たな制度、新たな活用で森林の価値を高める！

バイオものづくりの価値 (木質由来製品)

石油代替、木質由来だからその特性・機能



「標準化」「ブランディング」「社会受容性」を業界団体と
共に働きかける。仕組みづくり、国への提言と連携 等

→ 森林の価値により、木質由来製品の価値を高める！



Dedicated to
Sustainability